

酸素架橋錯体をあやつる

研究を始めた年の暮れ、溶液中にきらりと輝く結晶を発見し、すぐに電気化学測定を行いました。そろそろ仕事納めかと考えていた矢先、仕事は納まるどころか急増しました。早々に X 線構造解析を行い、これが自分と「酸素がルテニウム間を架橋した二核錯体」(= Ru(III)-O-Ru(IV) 錯体)との出会いであり、水の酸化反応ひいては光合成に本格的に興味を持つ契機となりました。まさにこの年、天然の酸素発生中心(OEC)の X 線構造解析が沈先生らにより報告されたことを知り、感銘を受けたことも思い出されます。 . . .